

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100545		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホーム めだかの学校 高畑		
所在地	山梨県甲府市高畑2丁目16-11		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年12月21日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員で決めた理念が「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」です。利用者様に少しでもここに来て良かったと思って頂けるよう、ここが「施設」ではなく、もうひとつの家(ホーム)になれるよう日々努力しています。利用者様が施設内にこもる事なく、外へ出る機会として季節ごとに花見や紅葉狩り等の他、少人数で利用者様の行きたい所へ行く個別外出も行っています。天気の良い日には施設近くの延命地蔵まで行き、お参りするのが散歩コースとなっています。夏には畑で野菜を育て、一緒に収穫したりと家庭的な雰囲気大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年の3月に開所した事業所は、木造2階建て2ユニットで法人としては6番目の事業所となる。甲府の南西に位置し主要道路から東に少し入った場所、周辺は飲食店や住宅地ではあるが比較的静かな環境である。毎日、利用者と一緒に清掃を行ったり、料理、洗濯等家事の継続支援を行っている。また、個別外出として利用者の希望を聞いて行きたい所などに出かけ、笑顔があふれる機会を作っている。法人内の職員研修が月1回、内部研修は全職員出席できる時間帯で年5回実施している。管理者と職員は、利用者の笑顔があふれ、ここに来てよかったと思ってもらえるように日々の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人での理念もあるが、施設開所時、職員全員で話し合い、施設理念を「笑顔あふれる ここに来て良かったと思えるホームにする」と決め、職員一同共有し、それに向かいケアにあたっている。	法人での理念もあるが、施設開所時、職員全員で話し合い、施設理念を「笑顔あふれる ここに来て良かったと思えるホームにする」と決め、職員一同共有し、それに向かいケアにあたっている。	事業所開所時に職員全員で決めた理念は、利用者に書道で書画していただき、フロアに掲示している。目の付くところにあり、常に意識づけがされている。また、毎月の職員会議で理念を振り返り、利用者の出来ること、出来ないこと、笑顔が見られる場面を職員間で話し合い、共有して支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや、防災訓練に利用者様と共に職員も参加させて頂いている。自治会にも入らせて頂き、地域清掃などにも参加している。	地域の夏祭りや、防災訓練に利用者様と共に職員も参加させて頂いている。自治会にも入らせて頂き、地域清掃などにも参加している。	地域の一員として、自治会に加入している。夏祭りの参加や文化祭への見学等、回覧板や隣人から情報を得ている。利用者が散歩に行くお蔵様のある場所は、地域の人も集まる場所となっており、挨拶を交わしたり、会話をして日頃から顔見知りになっている。	運営推進会議に出席している民生委員からも提案があったボランティアの受け入れについて検討し、例えば話好きな利用者には、傾聴ボランティアなど市にも協力をお願いして、利用者との交流の機会を作りたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には積極的に参加し、地域の方と話をすることで施設の説明や認知症について聞いて下さる事が多くあり説明をしている。	地域の行事には積極的に参加し、地域の方と話をすることで施設の説明や認知症について聞いて下さる事が多くあり説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実施行事や利用状況などを報告し、利用者様や出席者より感想や意見を聞き、頂いた意見は職員会議にて報告し今後のサービスに活かせるように努力している。	運営推進会議では、実施行事や利用状況などを報告し、利用者様や出席者より感想や意見を聞き、頂いた意見は職員会議にて報告し今後のサービスに活かせるように努力している。	奇数月の第三水曜日の午前中と決めて、2か月に1回開催している。感染症予防の議題では、参加者から対処についてのアドバイスがあった。民生委員からは、手芸、工作のボランティアの受け入れについての意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点があった場合には、電話にて相談や連絡を行っている。	疑問点があった場合には、電話にて相談や連絡を行っている。	市の担当者には、運営推進会議の議事録や事故報告書を届けている。生活保護の方の受け入れについては、担当者と話し合い、受け入れた利用者の受診結果やケアプランの報告をしている。市の地域包括支援センター職員から地域ケア会議開催の依頼があり、事業所を活用してもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修にて身体拘束について研修を行っていると共に、日頃の対応にも、スピーチロック等不適切な処遇が拘束になる事を職員会議等で話している。	法人全体の研修にて身体拘束について研修を行っていると共に、日頃の対応にも、スピーチロック等不適切な処遇が拘束になる事を職員会議等で話している。	法人内の職員研修や全職員が出席する内部研修の中に、身体拘束をしないケアの研修も含まれている。言葉により利用者の行動を制限するような行為も含めて職員は理解し、身体拘束をしないケアを実践している。日中は玄関も施錠せずに、安全面に配慮して利用者の自由な生活を支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様一人一人の尊厳を大切にし、声掛け一つでも虐待につながる事を研修や日々の業務の中で指導している。職員間でも声かけ等不適切でなかったか注意を払っている。	利用者様一人一人の尊厳を大切にし、声掛け一つでも虐待につながる事を研修や日々の業務の中で指導している。職員間でも声かけ等不適切でなかったか注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もいるが、職員全員が制度について周知はできていない為、今後学ぶ場を設けていく。関係者とは支払い時等来所時に日々の様子を伝えたり、利用者の要望があった場合には相談等を行っている。	成年後見人制度を利用している方もいるが、職員全員が制度について周知はできていない為、今後学ぶ場を設けていく。関係者とは支払い時等来所時に日々の様子を伝えたり、利用者の要望があった場合には相談等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書と重要事項説明書にて説明をし、その場で疑問点があれば受け、納得・理解されるまで対応をしている。又、契約後も同様に疑問点があればその都度納得・理解されるまで対応をしている。	契約時、契約書と重要事項説明書にて説明をし、その場で疑問点があれば受け、納得・理解されるまで対応をしている。又、契約後も同様に疑問点があればその都度納得・理解されるまで対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、運営推進会議や面会時でも意見や要望が出た際には職員会議にて職員全員に共有し改善や反映できるよう努めている。	意見箱を設置しており、運営推進会議や面会時でも意見や要望が出た際には職員会議にて職員全員に共有し改善や反映できるよう努めている。	玄関に意見箱を設置して、利用者、家族から意見、要望を聞くようにしている。家族の面会時には、話しかけ何でも言ってもらえるよう心がけている。行事への参加や衣類・寝具の足りない時の連絡をしてほしい等の意見、要望は、職員会議で話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や会議、お昼休憩時に話をし意見や思いを聞くように心がけている。施設行事等、意見・提案があれば可能なものは取り入れるように努力している。	日々の業務の中や会議、お昼休憩時に話をし意見や思いを聞くように心がけている。施設行事等、意見・提案があれば可能なものは取り入れるように努力している。	日頃からコミュニケーションを図り、意見、要望を聞くようにしている。行事に関する職員からの提案や早出のシフト変更の要望があり、現場職員の意見を聞いて検討し、両ユニットの早出時間を変更した。理事長が毎週来ているので職員からの意見、要望は伝えている。	管理者は、日頃から職員の意見や要望を聞くように心がけているが、不満や苦情は言い難い部分も多いので把握できない可能性もあると思われる。年に1回は職員の個人面接の機会を設け思いを聞くことで職員の働く意欲の向上につながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の努力を認めていき働きやすい環境づくりを心掛けている。又、職員の勤務が可能な条件や保育・家庭の事情等を考慮し、勤務表を作るよう努力している。	職員一人一人の努力を認めていき働きやすい環境づくりを心掛けている。又、職員の勤務が可能な条件や保育・家庭の事情等を考慮し、勤務表を作るよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の職員会議の際、ミニ勉強会として月ごとに職員を変えテーマを決め調べてきた事を発表する場を設けている。さらに年5回の内部研修や、月に1回の職員研修に参加をし知識や技術の向上に努めている。	月に1回の職員会議の際、ミニ勉強会として月ごとに職員を変えテーマを決め調べてきた事を発表する場を設けている。さらに年5回の内部研修や、月に1回の職員研修に参加をし知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつか施設があるので、交流等行っている。他施設の研修の受け入れもし、意見交換など行っている。	法人内にいくつか施設があるので、交流等行っている。他施設の研修の受け入れもし、意見交換など行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人さんやご家族の思いや今までの生活歴・接し方等聞き、ケアに活かし、安心して頂けるような声掛け、対応を心掛けている。	入居前に面談を行い、ご本人さんやご家族の思いや今までの生活歴・接し方等聞き、ケアに活かし、安心して頂けるような声掛け、対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から密に連絡や話し合いをし、不安な点・困っていることがあれば聞き安心して頂けるよう努めている。	入所前から密に連絡や話し合いをし、不安な点・困っていることがあれば聞き安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の望んでいる事や不安点をお聞きし、必要としているサービスに近い法人内の施設を説明を行い、安心して利用してもらえるよう対応している。	本人や家族の望んでいる事や不安点をお聞きし、必要としているサービスに近い法人内の施設を説明を行い、安心して利用してもらえるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、一緒に生活し家事活動を共に行うことで、お互いに教え合い・支え合うことができる関係を気付いている。	家庭的な雰囲気の中で、一緒に生活し家事活動を共に行うことで、お互いに教え合い・支え合うことができる関係を気付いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは日頃より電話にて利用者様の状態等を連絡したり、月に1回施設新聞を出し様子をお伝えしている。利用者様自身が不安な点があり家族と話をしたいと希望があるときには本人様に電話をかけてもらうなど対応している。	ご家族とは日頃より電話にて利用者様の状態等を連絡したり、月に1回施設新聞を出し様子をお伝えしている。利用者様自身が不安な点があり家族と話をしたいと希望があるときには本人様に電話をかけてもらうなど対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族対応にて、同窓会や無尽の方との食事会などに参加をしていたり、個別外出にて生まれた場所や馴染みのある場所をご家族にお聞きし行っている。	ご家族対応にて、同窓会や無尽の方との食事会などに参加をしていたり、個別外出にて生まれた場所や馴染みのある場所をご家族にお聞きし行っている。	同窓会や無尽に出掛けたり、空手を指導していた時の教え子が面会に来たりしている。家族と電話で会話したり、請求書を送る時に本人が書いた塗り絵を同封している。定期的に家に帰る利用者もいて馴染みの人と場所が途切れないよう、生活習慣を尊重して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気の中、利用者様同士助け合いながら家事活動をしたり、レクリエーションを行う事で和やかな関係が出来ている。又、孤立しない様職員が間に入るなど対応している。	家庭的な雰囲気の中、利用者様同士助け合いながら家事活動をしたり、レクリエーションを行う事で和やかな関係が出来ている。又、孤立しない様職員が間に入るなど対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時より、グループホームにいられない状況になった場合には法人内の施設を紹介できることや、入居後も相談・不安点をお聞きしている。	契約時より、グループホームにいられない状況になった場合には法人内の施設を紹介できることや、入居後も相談・不安点をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のケアプラン更新時、利用者様一人一人の思いや希望を再確認すると共に日頃の会話や行動の中で汲み取れる様努めている。思いや希望を聞くことが困難な場合はご家族にも協力して頂いている。	毎月のケアプラン更新時、利用者様一人一人の思いや希望を再確認すると共に日頃の会話や行動の中で汲み取れる様努めている。思いや希望を聞くことが困難な場合はご家族にも協力して頂いている。	日頃の関わりや入居時のアセスメントから思いや意向の把握をしている。ラーメンを食べたいとの希望があり出前をお願いした。車いす使用の利用者は、歩く練習をして家に帰れることを目標にしている。また、意思疎通が困難な利用者には、行動や声掛けの工夫をして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族へ基本情報として生活歴や馴染みの場所・馴染みの習慣を用紙に書いて頂いている。又、ご本人やご家族とも若い頃の事等を密に話をしている。	入居前にご家族へ基本情報として生活歴や馴染みの場所・馴染みの習慣を用紙に書いて頂いている。又、ご本人やご家族とも若い頃の事等を密に話をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の今までの生活習慣を大切にしつつ、一日の流れを把握する。その中で気付いたこと・出来る事は職員同士共有し維持していく。又、色んなことをやって頂く。	一人一人の今までの生活習慣を大切にしつつ、一日の流れを把握する。その中で気付いたこと・出来る事は職員同士共有し維持していく。又、色んなことをやって頂く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、職員会議にて話し合いをし、意見を取り入れている。職員会議以外にも日頃からより良いケアを目指し職員・ご家族と話し合いを行っている。	月1回、職員会議にて話し合いをし、意見を取り入れている。職員会議以外にも日頃からより良いケアを目指し職員・ご家族と話し合いを行っている。	毎月の職員会議でアセスメントを含めて意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。計画内容を変更する時には、利用者、家族の意見を聴いて確認し、3か月または状態に変化が無ければ6か月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人記録へ、実践・結果、気づきを書きつつ職員同士で小さなことから話をし問題点等を導き出し、見直しに努めている。	日々個人記録へ、実践・結果、気づきを書きつつ職員同士で小さなことから話をし問題点等を導き出し、見直しに努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれたニーズ臨機応変に対応できる様努力しているが、難しい部分もある為柔軟な対応が出来るよう取り組んでいきたい。	その都度生まれたニーズ臨機応変に対応できる様努力しているが、難しい部分もある為柔軟な対応が出来るよう取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方より作品作り等や慰問の話をして頂いているが実現していない為、お願い出来るよう取り組んでいきたい。	運営推進会議にて地域の方より作品作り等や慰問の話をして頂いているが実現していない為、お願い出来るよう取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族より、かかりつけ医を聞き今後はどうしていくかお聞きし、変更時には移行がスムーズに行えるよう支援している。入所後もご家族対応の際は職員が付き添いをしたり、日頃の状況や気になる点をお伝えし、何か気になる点があればすぐに医師に連絡するようにしている。	入所時にご家族より、かかりつけ医を聞き今後はどうしていくかお聞きし、変更時には移行がスムーズに行えるよう支援している。入所後もご家族対応の際は職員が付き添いをしたり、日頃の状況や気になる点をお伝えし、何か気になる点があればすぐに医師に連絡するようにしている。	入居前からの病院や法人の協力病院を本人、家族の希望するかかりつけ医として定期受診している。受診には職員が同行し、日頃の状況を伝えている。変化があった場合は家族に連絡して情報の共有をしている。内科以外の受診は、基本的に家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の気になる点を看護職・管理者に報告し、何かあればすぐに医師に相談をし対応している。	介護職員は、日常の気になる点を看護職・管理者に報告し、何かあればすぐに医師に相談をし対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設生活を書面、口頭で情報提供し、疑問点があれば連絡を取り合っている。施設での受け入れ可能な状態を伝え、早期に退院できるようにいつでも対応できる旨伝えている。	入院時には施設生活を書面、口頭で情報提供し、疑問点があれば連絡を取り合っている。施設での受け入れ可能な状態を伝え、早期に退院できるようにいつでも対応できる旨伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期になった場合施設ですることと限界を説明し、ご本人・ご家族がどうしていくか時間をかけ考えて話し合えるようお伝えしている。	契約時に重度化・終末期になった場合施設ですることと限界を説明し、ご本人・ご家族がどうしていくか時間をかけ考えて話し合えるようお伝えしている。	入居時に重度化や終末期に事業所が対応できるケアについて説明を行っている。医療行為が必要となった場合は、病院への移行も含めて本人、家族と話し合いを行う事としている。また、医療行為を必要としない看取りについては、受け入れの準備ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に5回行う内部研修の中で現役の救急法指導員による救急法を行い、内部の講師による緊急時の対応について学んでいる。	年に5回行う内部研修の中で現役の救急法指導員による救急法を行い、内部の講師による緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回火災・地震・水害等想定した避難訓練を行っている。訓練前には、職員・利用者様に向け講話を行い、適切な対応をお伝えしている。運営推進会議でも議題に取り入れ、ご家族に災害時地域協力者になって頂いている。	年に数回火災・地震・水害等想定した避難訓練を行っている。訓練前には、職員・利用者様に向け講話を行い、適切な対応をお伝えしている。運営推進会議でも議題に取り入れ、ご家族に災害時地域協力者になって頂いている。	消防計画に基づき年2回以上は避難、救出その他必要な訓練を実施することになっている。前もって火災や地震を想定して避難する時の心得を利用者に伝えて実施している。2階に居室がある利用者は日頃から階段を使うようにして、いざという時に備えている。夜間を想定した訓練は、3月頃を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、職員には何気ない言葉がけでもプライバシーを傷つける事を常に話し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	一人一人を尊重し、職員には何気ない言葉がけでもプライバシーを傷つける事を常に話し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	利用者一人ひとりの生活歴を尊重して日頃の声掛けに気をつけている。居室に入る時は、ノックしてから入るように心がけている。また、トイレの戸を開けたままの状態を前を通られた時の状況を職員が体験して、プライバシーを損ねるかなど話し合っている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、本人の思いや希望が話しやすい問いかけを行うように心がけている。何事も自己決定しやすいよう、選択肢をお伝えして対応している。	日頃より、本人の思いや希望が話しやすい問いかけを行うように心がけている。何事も自己決定しやすいよう、選択肢をお伝えして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって、利用者様の希望をお聞きしたり、レクリエーションや散歩等は参加の有無をその都度お聞きし、利用者様のペースに沿って支援するよう心掛けている。	その日によって、利用者様の希望をお聞きしたり、レクリエーションや散歩等は参加の有無をその都度お聞きし、利用者様のペースに沿って支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際には女性はお化粧をしたり、日頃より洋服を選んでいただいたり、整容の声掛けを行っている。	行事の際には女性はお化粧をしたり、日頃より洋服を選んでいただいたり、整容の声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	火曜日と金曜日の買い物日には、利用者様の食べたい物をお聞きしリクエストにてメニューを決めたり、一緒に家事活動やお菓子作りをすることで食の楽しさを共有している。	火曜日と金曜日の買い物日には、利用者様の食べたい物をお聞きしリクエストにてメニューを決めたり、一緒に家事活動やお菓子作りをすることで食の楽しさを共有している。	一週間の献立は法人で作っているが、火曜日と金曜日の夕食は利用者と相談しながら決めている。調理の盛り付け、片付け等一緒に行うことの出来る利用者は手伝っている。2階の利用者は、職員と一緒に調理したものを1階に持ちに行くなどして張り合いや自信につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人に合わせ提供し、水分もなかなか摂れない方には好きな飲み物やゼリー・アイス等で対応している。	食事は個人に合わせ提供し、水分もなかなか摂れない方には好きな飲み物やゼリー・アイス等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人に合わせた口腔ケアを行い、義歯の方は夜に洗浄させて頂いている。	毎食後、個人に合わせた口腔ケアを行い、義歯の方は夜に洗浄させて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせて、なるべくおむつ等にならないように声掛けや支援を行っている。	個人の排泄パターンに合わせて、なるべくおむつ等にならないように声掛けや支援を行っている。	トイレで排泄できている利用者には声かけで支援している。車いすを使用しているも、立位ができる場合はトイレでの排泄を大切に誘導している。自立してトイレで排泄できる利用者は、排便時職員に報告しているので体調等把握することができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず自力で排泄できる様、冷たい牛乳を提供したり、トイレ誘導時に腹部マッサージ等を行い、カんでもらう様声掛け対応している。	薬に頼らず自力で排泄できる様、冷たい牛乳を提供したり、トイレ誘導時に腹部マッサージ等を行い、カんでもらう様声掛け対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望があれば入浴できる様努力をしている。入浴拒否をされる方には無理強いせず、気持ちよく入って頂けるように時間や職員を変えたり、声掛けを工夫をしている。	個人の希望があれば入浴できる様努力をしている。入浴拒否をされる方には無理強いせず、気持ちよく入って頂けるように時間や職員を変えたり、声掛けを工夫をしている。	基本的には、週2回としているが毎日入浴準備ができて希望があれば入浴している。使い慣れた、シャンプー、リンス、ボディソープを持ち込んでいる利用者もいる。入浴を拒む利用者には声かけの工夫をしたり、同性介助を希望する場合は対応して、一人ひとりに合わせて入浴支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい事を言えない利用者様もいるので、様子を見て声掛けを行い、夜は就寝時間は決めず、その方の思いに添うように行っている。	休みたい事を言えない利用者様もいるので、様子を見て声掛けを行い、夜は就寝時間は決めず、その方の思いに添うように行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のケースに薬の説明書がはさんであり、職員がいつでも見れるようになっている。変更があった場合には申し送りのノートに書いている。	一人一人のケースに薬の説明書がはさんであり、職員がいつでも見れるようになっている。変更があった場合には申し送りのノートに書いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意なこと、好きなことを活かせるように生活歴を確認しながら声掛けをし一緒にいき、自分の役割と思ってやって頂けるように努力している。	個人の得意なこと、好きなことを活かせるように生活歴を確認しながら声掛けをし一緒にいき、自分の役割と思ってやって頂けるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話で、ラーメンが食べたいと要望のあった際には目の前にあるラーメン屋で数十食作って頂くなど、地域の協力も得ながら、家族と相談を行い、外出が継続できる様支援している。	日頃の会話で、ラーメンが食べたいと要望のあった際には目の前にあるラーメン屋で数十食作って頂くなど、地域の協力も得ながら、家族と相談を行い、外出が継続できる様支援している。	日常的には、天気の良い日に近所を散歩している。また、年に数回個別外出で行きたい所に職員と一緒に掛けたり、家族と一緒に定期的に出掛ける利用者もいる。法人の運動会、夏祭りには、家族も現地に集合して一緒に参加している。花見や紅葉狩り等季節やその時々状況に合わせて、一人ひとりが楽しめるような外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行った際には利用者様にお金を払って頂いたり、個人で財布を待っている方にはそこから支払うようにして頂く等自立した生活を意識して支援している。	買物に行った際には利用者様にお金を払って頂いたり、個人で財布を待っている方にはそこから支払うようにして頂く等自立した生活を意識して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望によって、ご家族に電話をしたり、年に何回かはご家族へ手紙を書く機会を設けている。	利用者様の要望によって、ご家族に電話をしたり、年に何回かはご家族へ手紙を書く機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は利用者様と共に毎日清掃をしたり、一緒に作った飾りを置いたり、季節ごとの花等を飾り工夫している。	共有の空間は利用者様と共に毎日清掃をしたり、一緒に作った飾りを置いたり、季節ごとの花等を飾り工夫している。	1階、2階共に居間兼食堂のフロアを囲んで居室があり、大きなテーブルを囲んで食事したり、日中は作品作りなどして過ごしている。また、2階の階段を上った所にソファが置かれ腰かけて利用者同士や家族等と話ができるような場となっている。トイレや浴室は、広くて使い易くドアに表示がなくても生活の中で感覚として利用者が使用出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになりたいときには、個々にフロアと部屋を歩き来し本人がしたいことを行っている。又、気の合った利用者様同士は、利用者様の意思で一緒に行動したり一つの部屋に集まり話をしている事もある。	ひとりになりたいときには、個々にフロアと部屋を歩き来し本人がしたいことを行っている。又、気の合った利用者様同士は、利用者様の意思で一緒に行動したり一つの部屋に集まり話をしている事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのある家具や写真などを持ってきて頂いている。	居室には、馴染みのある家具や写真などを持ってきて頂いている。	居室には、ベット、整理ダンス、吊り戸棚、カーテン、エアコンが備えてある。寝具や写真、テレビ、衣類用整理棚が持ち込まれ、備えてある整理ダンスは移動し配置を変え、利用者と家族で部屋作りをしそれで居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内が広く空間があることによって、車椅子の方でも自走ができた部屋には名札を付けたりと工夫をしている。	フロア内が広く空間があることによって、車椅子の方でも自走ができた部屋には名札を付けたりと工夫をしている。		